

# 郷音キ

No. 92

〒590-0959

日本キリスト教団

堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一、十三

☎〇七二・二三三二・三三三二

「言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。」

(ヨハネによる福音書一章一四節)

クリスマスを迎えました。右の聖句がクリスマスの出来事を告げています。「言」とはイエス・キリストを指しています。神の「言」、

神の独り子イエス・キリストが、私たちが人間と同じ肉をとられて、私たちの間に宿られたのです。それがクリスマスです。キリストはマリアの胎から人間の赤ん坊としてお生まれになりました。この赤ん坊に「神の栄光を見た」と御言葉は語ります。「それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた」と。

マリアが産んだ子は、外見上は全く普通の赤ん坊でした。他の子と何も変わりませんでした。しか

しこの赤ん坊に、神の栄光を見た、と御言葉は語るのです。このことを認めて、この方を礼拝するのがクリスマスです。

冒頭の聖句に先立つ箇所で、ヨ

ハネ福音書はこう語っています。

「初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。…万

## 言は肉となつた

ヨハネによる福音書一章一〜一四節



塚本一正牧師

でしょうか。

ヨハネ福音書はイエス・キリストを「言(ことば)」と呼びます。神はご自分の「ことば」によって

創造の御業をなされます。創世記の天地創造物語は、初めに神が「光あれ」と言われて、闇と混沌の中に光を創造されたことを語っています。イエス・キリストはこの神の「言(ことば)」なのです。キリストがクリスマスに肉となつて来てくださったのは、この世の闇と

混沌の中に、新しい光を創造してくださるためなのです。私たちが生きる世は、今まさに闇と混沌なものではないでしょうか。そこに光を創造するために、神の「言」キリストは肉となつて私たちの間に宿ってくださったのです。

福音書は、クリスマスにお生まれになつたキリストを多くの人々が受け入れなかつたことを記しています。ルカ福音書は「宿屋には彼らの泊まる場所がなかつた」と記

し、ヨハネ福音書は「民は受け入れなかつた」と記します。多くの人にとつてこの子はただの小さな取るに足らない赤ん坊でした。

しかし、受け入れた人々もいました。マタイ福音書は、東方の学者たちが母マリアと共にいた幼子に神の栄光を見てひれ伏し、黄金、乳香、没薬の宝物を献げたことを記しています。ルカ福音書は、羊飼いたちが飼い葉桶に寝かせてある赤ん坊を見つけ、神をあがめ賛美したことを記しています。神の言キリストがこの人たちの内に信仰を創造してくださったのです。

キリストは私たちの内にも信仰を創造していただきました。だから私たちは信仰者とされました。私たちも、東方の学者たちや羊飼いたちと共に、クリスマスの赤ん坊、神の言、救い主イエス・キリストを礼拝します。キリストがこの闇の世に光を創造してくださることを信じ願つて。キリストが全ての人の内に信仰の光を創造してくださり、全ての人を救つてくださることを信じ願つて、クリスマスを祝うのです。